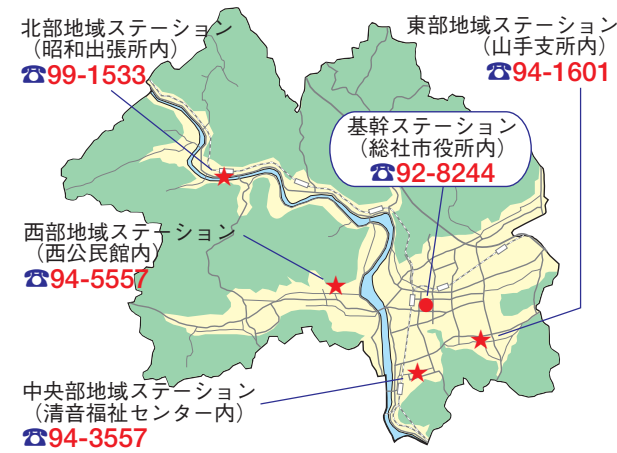




市政モニター
最相 信雄さん
(井手)

介護保険制度を理解し、
みんなで支え合って
住みよいまちにしたいですね。

●地域包括支援センターの
基幹ステーションと地域ステーションの位置



◆相談は8766件

最相 介護予防の拠点ということで、新しく「地域包括支援センター」が設置されたと聞きましたが。
難波 そうです。先ほど話しました介護予防と自立支援に取り組むため、昨年の4月に地域包括支援センターを設け、高齢者の人やその家族への支援を担っています。総社市の場合、基幹ステーションと地域ステーション(市内4か所)を設置しています。
最相 だれもが介護や支援が必要となっても、安心して住み慣れた地域や家庭で自分らしく生活できることを

望んでいます。このような拠点ができたことは地域にとっても、ほんとうにありがたいと思います。具体的には、どのような業務をしていますか。



清音福祉センター内にある中央部地域ステーション

難波 将来、介護が必要になるかもしれない要支援1・2の人への介護予防サービスの提供や、健康状態の向上・維持の支援などを行っています。また、介護や健康、高齢者虐待などの相談を受けていて、平成18年度は8766件の相談がありました。特定高齢者の人の、運動機能の向上や栄養改善、閉じこもり防止といったことにも取り組んでいます。

最相 いろいろなフォローをしているんですね。

◆地域で見守る

難波 地域での介護予防や自立支援に取り組むための協議の場として、「小地域ケア会議」があります。
最相 地域が主体で活動するのですか。
難波 小地域ケア会議は市内に21あります。おおむね小学校校区単位です。地元の民生委員や福祉委員などが中心になって、地域が抱える課題や問題などを話し合い、高齢者の皆さんが安心して暮らせるよう、見守り活動などに取り組んでいます。
最相 日ごろ、地域で活動されている民生委員や福祉委員などがいつしよになってがんばっているんですね。地域で主体になる人材も必要ですね。

難波 そうです。今年の夏に、介護予防の活動を自主的に行える人材を養成しようと、介護予防サポーター養成講座を開催しました。21人の修了生には今後、この講座で得た介護予防の知識や体操などを生かし、地域での活躍を期待しています。

最相 介護予防サポーターの人が活躍すると、地域としても頼もしいですね。地域の人みんなで見守れる体制が一番です。
難波 介護予防サポーターの養成は、継続してやっていきたいと思っています。

◆集う場が必要

最相 一人暮らしや閉じこもりがちな高齢者の人が気楽に参加でき、ふれあえる場も地域には必要ですね。
難波 はい。参加者みんなで体操したり介護予防の知識を深めたりする「健康づくりの集い」が公民館の分館単位で19か所。社会福祉協議会へ委託している事業の「ふれあいサロン」が123か所あります。
最相 そうですか。実際に、参加されている人の評判はどうですか。
難波 ふれあいサロンでは、お茶を飲みながら世間話をしたり、趣味の碁を打ったり、各サロンごとにまちまちなんですが、「知らない人とも知り合いになった」「楽しかった」などの

声を聞きますね。
最相 高齢者が立ち寄れる場があるというのは、いいことですね。高齢者だけでなく、子どもも含めて若い世代とも交流できたらいいですね。
難波 そうですね。

最相 数十年先に迎える老後のために、若い世代にもこうした活動を知ってもらうことも大切ではないですか。
難波 「健康づくりの集い」や「ふれあいサロン」を通じて、多くの高齢者の人が集い、結果として、介護予防や自立につながればいいと思います。
最相 地域と行政が一体になって地域の福祉を盛り上げているのですね。

いろんなことをやっているんだなと新鮮に感じました。最後にこれからについて、一言お願いします。

難波 介護に関わらず、かつての社会のように、人が集い、コミュニケーションが密になる社会が望ましい形かもしれませんね。地域の見守りが地域の自主的な活動につながり、見守る人が、今度は見守られる人になる。そういうお互い様という気持ちも大切にしたいです。そして、みんなが集い、住み慣れた地域で元気に過ごしていただけるよう介護予防に取り組みたいです。
最相 今日は、ありがとうございました。



介護保険課
難波 道好課長



介護予防サポーター養成講座の講義の様子

介護
保険

対談●介護保険
市政モニター
最相 信雄さん
◆
介護保険課
難波 道好課長